

家のお手入れ



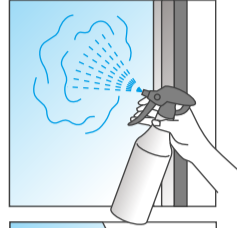
ガラスの飛散防止

ウインドウフィルムを貼っておけば、万が一ガラスが割れても、その破片でケガをするという事態は防げます。透明タイプから、カラー、ステンドグラス柄などが揃っていますから、窓やドア、食器棚や本棚の扉のガラス面にはもちろん、額縁や掛け時計のガラス面、鏡、水槽などにも貼っておきましょう。ガラス天板のテーブルは、裏面に貼っておけば日常も邪魔になりません。また、浴室や洗面所の鏡には、曇り止めシート（貼り方はウインドウフィルムと同じ）を貼る方法もあります。



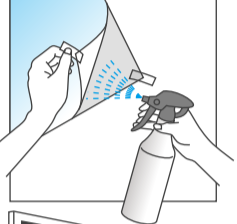
1 ウインドウフィルムをカットする

ガラス面や枠の汚れをきれいに洗い落としてから、寸法を測り、それより周囲1~2cm大きなサイズにウインドウフィルムをカットする。



2 ガラス面に水をスプレーする

貼る前にガラス面に水をスプレーするのがポイント。そうすると、貼る時に失敗しても、曲がりやシワを自在に直すことができる。



3 フィルムの裏紙をはがす

はがしにくい場合は、フィルム角の裏表両面にセロテープを貼って開く。フィルムの裏側に水をスプレーしながらはがすと、裏紙とくっつかないので作業が楽。



4 ガラス面にフィルムを貼る

ゴムベラで中心から外へ向かってこするようにして、空気と水を追い出して密着させる。



5 余分なフィルムをカットする

ガラスのまわりのゴムを切らないように、枠から2~3mm内側をカットするように定規を当て、カッターで切りとる。

地震対策

【家具の転倒とガラス飛散防止】

One Point Advice

家具の配置にも気をつけましょう。

●重いモノは下段に上部に重いものを置くと不安定になり、倒れやすくなるので注意。収納棚の安定をよくするため、重いモノは下段に入れるようにしましょう。高い位置に重いもの、危険なものを飾るのもNGです。



●寝室にはできるだけ家具を置かない。眠っている無防備な時に家具が倒れてきたら、それを防ぐ手立てはありません。寝室に家具を置く場合は、できるだけ背の低いものを選びましょう。高さが奥行き3倍以上の家具は危険と考えると間違いありません。また、頭上に額縁や大きな時計を飾るのも危険です。



●出入り口付近に家具を置かない。家具が倒れるとドアが開かなくなり、閉じ込められる危険性があります。



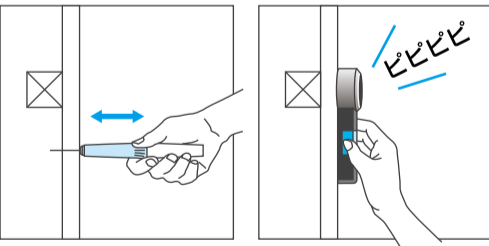
家具の転倒防止

L字金具で壁に固定する

タンス、本棚、食器棚などほとんどの家具に利用できる方法。金具で直接、壁に付けるので、しっかり固定できます。

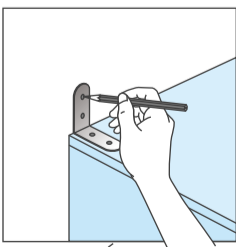
取り付け位置を決める

合板や石膏ボードの張ってある壁の内側（下地）には、柱、間柱、胴縁と呼ばれる桟が入っている。壁にL字金具等を取り付ける際は、これらに固定しないと、振動でネジが抜けるなどして、イザという時に効果がない。また、間柱の上に胴縁が取り付けられている場合は、胴縁にしかネジがきかないので注意を。通常、間柱は45cm間隔、胴縁は30~45cm間隔にあるので、それを目安に壁を叩き、固い音がする場所を探すとよい。その際、桟の位置をセンサーでチェックする器具か、壁に押し付けると針が出て、その抵抗感の違いで有無を調べる道具を用意すると、もっと確実に簡単に探すことができる。家具は、両端の側板と天板が接している箇所に取り付けるようにする。



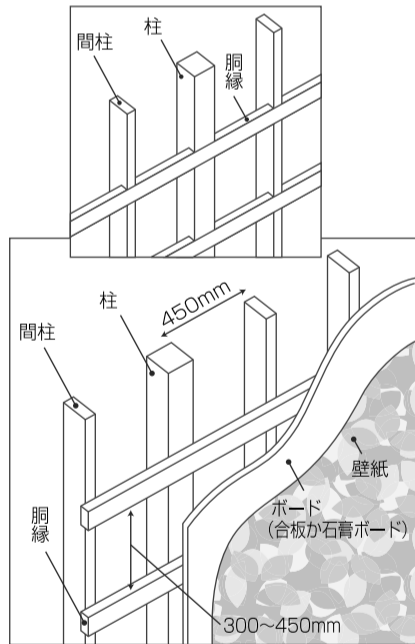
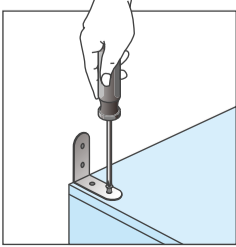
2 マークを付け下穴をあける

取り付け位置を決めたら、金具を当ててみて、すべてのネジ穴の中央に鉛筆などでしるしをつける。一旦、金具をはずし、しるしをつけた箇所をキリで下穴をあ

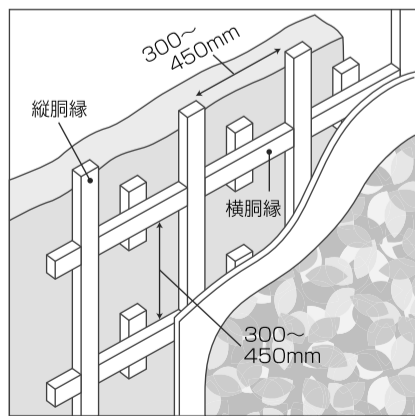


3 しっかりとネジ留めする

穴の位置に合わせて金具を当て、下穴にネジを差しこんでドライバーでしっかりと締めて固定する。



木造住宅の壁の構造例



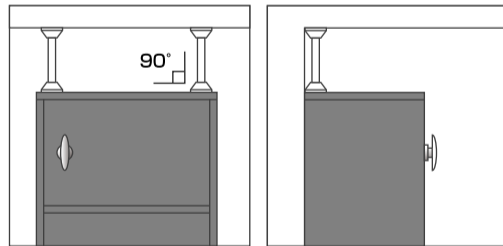
コンクリート住宅の壁の構造例

家具にキズをつけたくない場合

賃貸住宅などで壁に穴をあけたくない場合や、コンクリート住宅で、壁にネジがきかない場合は、以下のような方法があります。

●突っ張り金具で固定する

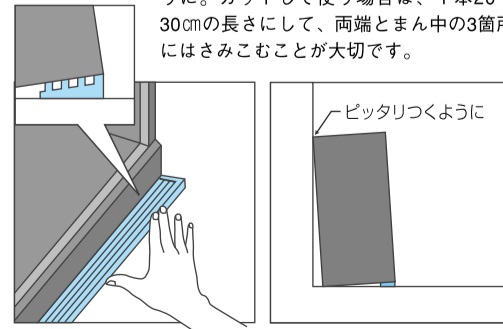
天井がしっかりしているコンクリート住宅なら、天井と家具の間に入れ、上下に突っ張って固定するタイプがおすすめ。家具と天井との隙間に合う長さのを選び、家具の天板の両端に取り付けるようにしてください。できるだけ壁面に寄せ、天井と家具の隙間に垂直に立てるのがポイントです。



●安定板をはさむ

家具の前面に安定板をはさみこむことで、重心を後に移して前側に倒れにくくする方法。合成樹脂やゴム製で、そのままはさみこむタイプと切っても使える柔らかいタイプがあります。長さも各種揃っているので、家具の大きさに合わせて選びましょう。

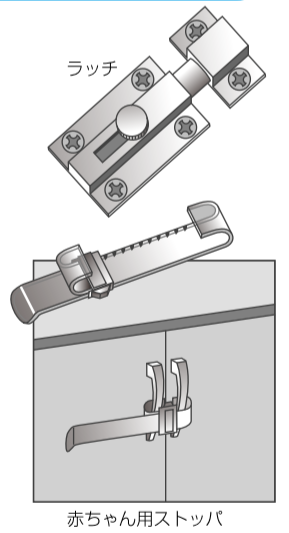
取り付けの際は、デコボコのある面を家具に当ててはさみこみ、家具の後上部が壁にピッタリつくように調整してから中身を入れ、揺らして安定しているかどうか確かめるように。カットして使う場合は、1本20~30cmの長さにして、両端とまん中の3箇所にはさみこむことが大切です。



中身の飛び出し防止

扉付き家具の場合

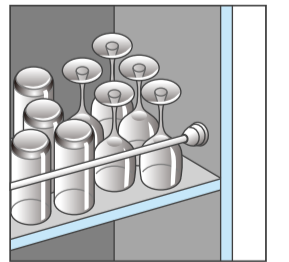
扉にネジで簡単に取り付けることができるラッチを付けてストッパーにすると安心。さまざまなタイプが市販されていますが、扉の内側につけるタイプだと、インテリアも損なえません。取手付きの扉なら、子供のいたずら防止用のストッパーを使うのも方法です。



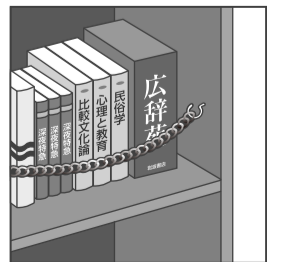
赤ちゃん用ストッパー

オープン棚の場合

角材やチェーン&ヒートン、突っ張り棒などを使って棚板にガードをつけておけば、最初の一揺れで落ちるという事は防げます。ただし、確実ではないので、揺れがきたら、できるだけ早くオープン棚から離れるように。また、落ちて危険なものはオープン棚に飾らないように注意してください。



突っ張り棒



チェーン&ヒートン